



～キリストの愛の精神にもとづき、こどもたちの未来と地域福祉の向上に努めています～



## 活躍中！ 二葉のシニアの皆さん



人生100年時代を迎え、年齢にとらわれない働き方・生き方ができる職場・社会づくりが求められている昨今、二葉では、シニアの方々も大活躍中です。

今回は、子ども達のために、子ども達を支える職員のために働くシニア職員の中から5人の紹介をします。



**二葉乳児院 齋藤ミヨシ(職員食堂 木～日の担当)・80代前半**  
**小澤トヨ子(職員食堂 月～水の担当)・70代後半**

乳児院職員食堂は、現在、2代目の齋藤さんと4代目の小澤さんに週に3日と4日を分担して頂いています。齋藤さんは19年目で、得意料理は肉巻きやたけのこ御飯、7年目の小澤さんは、食材をフル活用してとにかく品数を多く提供してくれます。

職員の昼食を多い時は60食分作るので(唐揚げなど個数のあるのは、その何倍も)、まさに職員食堂は「火の車」になります。それぞれの職員の好き嫌いやアレルギーにも配慮してくれていて、献立外のものを提供してくださったり、全国各地から入職して来る職員にとってここで食べるものが、初めて食すものであったりもします。お二人が作ってくださる食事が、職員に活力を与えていることは間違いありません。

乳児院に在院中の子どもの「お食い初め」の日には、御赤飯や煮物、親御さんには鯛の尾頭付き、職員用に焼き魚を準備して下さり、皆でその子の未来を祝し

ます。また、職員食堂は、悲喜こもごもの人生相談の場になったりもします。人生経験の豊かな食堂のお二人には、年齢や人生経験を重ねた分だけの意見があり、受けとめてくれる安心感は絶大です。

いつも、ありがとうございます。末永く働いていただくと嬉しいです。

(都留乳児院長)



職員食堂の昼食 (8月8日)



齋藤さん



小澤さん



職員食堂の風景



## 二葉学園・実光朋美(家事援助職)・68歳

私が48年前二葉学園に入職した時、大先輩のお一人が「この仕事は、かっぱえびせんねー、やめられない♪とまらない♪なのよ」と忙しそうに子どもたちのお世話に走り回っていました。当時の児童養護は生活を支えることが主な業務でした。今ほど物資にも恵まれず、進学も殆どが義務教育(中学卒)までで、高校進学は稀でした。貧しいながらも季節毎の行事などが子どもや私たち職員にとっても楽しいイベントでもあり、思い出でもありました。

昨今、日本の世の中はより複雑になってきました。

世の中が複雑になればなるほど、そのしわ寄せが子どもを直撃しているように思います。問題や心の障害を抱える子どもも多く入所するようになり、専門的知識を必要とする支援が求められるようになってきました。

そんな中で日々ともに働く自分よりも若い世代の方々について抱く想いとしては、「何故この職業を選択したのかを深く受け止め、子どもと自分自身両方に真剣に向き合って努力して欲しい」ということです。どの子どもも平等に幸せになる権利があることを念頭に置いて、二葉学園や二葉保育園の理念を受け継いでいてもらいたいと切に願っています。私はもう少し働きます。

※法人では、本年1月、子ども達のために長年に渡って現場実践に尽くされている実光職員に徳永恕賞を贈呈しました。



## 二葉むさしが丘学園・峯尾敏幸(グループホーム担当)・62歳

資産運用の世界で40年超働いてきました。定年を機に二葉むさしが丘学園に応募し、今は子どもたちの生活の支援をしています。保育士試験に合格したのが2014年と9年も前でしたが、「やろうと思いついたものは、必ずやる」という意志で、思い切って新しい世界に飛び込みました。

今、とても楽しく、面白く仕事をしています。言うことを聞いてくれない子どもにいかに対応するかといった問題を勉強できる楽しさもあります。私の娘とほぼ同じ年の女性職員や同年度に入職した「筋肉マン」(筋骨隆々の男性職員のニックネーム)をはじめ男性陣

もがんばっている姿を眺めるのも、うれしく思います。

最近、がんばったことを各人が述べ、認め合うという研修がありました。サンタさんの英文レター、魚の調理、水泳のレッスン、ダンス等々。これらは私が挑戦した経験の一部です。この年になって新たな技や知識を自身が身に着けていることを発見して驚いています。こうしたことを含め、働く機会を与えていただいたむさしが丘学園の皆様へ感謝です。



## 二葉くすのき保育園・酒井奈美江(保育士)・60代後半

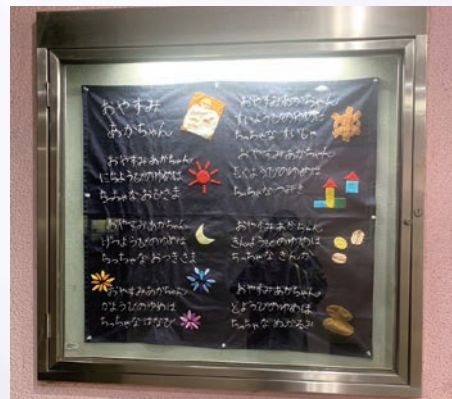
まさかこんなに長い間働くことになろうとは?! 40年以上前を振り返ると、自分自身の変化はもちろん、子どもたちを取りまく環境の変化、社会の変化に驚かされる。

しかし、昔も今も変わらないものがある。それは“子どもたちのために”一生懸命働く職員の姿と、多忙を極めながら必死に子育てする保護者の姿。これは時代が変わっても変わらぬ姿なのかなと思う。

自分が小学生の頃、養蚕やりんごで忙しい近所の農家の小さい赤ちゃんの子守りをして、いつも「ありがとね」と言ってもらえた。それが私の保育士人生の原点だったかもしれない。だから今も「誰かの役に立てたら」という気持ちもあり、つつい居心地の良い、二葉くすのきで働き続けているのだと思う。

今は自分が学んできた「わらべうた」をたくさん後

輩たちに伝えていきたい、四季を感じることでできる園庭環境を残していけるよう、せっせと環境整備をする。そんなことを思いながら日々過ごしている。



酒井保育士の刺繍タペストリー作品  
〔「おやすみあかちゃん」の詩〕



## 特別寄稿 「里親支援・フォスタリングの展開～二葉の取組みのこれから」

横堀 昌子(二葉乳児院 第三者委員/二葉子どもと里親サポートステーションスーパーヴァイザー)

「こどもまんなか」を掲げたこども家庭庁。理念に新しさは感じない。課題を課題として向き合い、二葉乳児院の基本理念“children first”に常に立ち返ろうとする専門職の働きにすでにふれてきたからだ。子ども・家族の福祉課題の改善に取り組む責任がある社会に、私たちは生きている。

鈴木祐子前乳児院院長時代の養育家庭センター（～2001年度末）以来の、乳幼児の里親委託・養子縁組を重んじる乳児院の方針は、とくに二葉子どもと里親サポートステーションに継承され、丁寧な支援を目指すリーダーたちが育ち、展開をみせている。

筆者は2009年からフォスタリングチームのスーパーヴァイザーを担ってきた。

ともに試みるのは、自らを含め人や環境の強みを確認し、子どもに届く実践の構築、関係者との相互作用を活かしチーム養育を動かす力の育成、“children first”を命綱とする省察的实践である。フォスタリングは、子どもを中心とし、実親・里親を含むチーム養育関係者の協働のプロセスで構築する「子どもの人生をつなぐ支援」である。「子どもの最善の利益」を追求し、実現を模索する、まさにソーシャルワークだ。

2016年改正児童福祉法に、子どもの家庭養育を優先する原則が明記され、より質の高い里親養育実現のためフォスタリング業務が都道府県に求められ、位

置づけられた。

2022年改正児童福祉法では里親支援センターが児童福祉施設として位置づけることが決まった。制度の変遷も構造も複雑で、関係者の確認が必要なことも多い。責任の所在の明確化や役割分担の確認は必須だ。

時折、チーム養育関係者間で「子どもの最善の利益」が一致しないと聞く。区児相設置も進む中、行政・民間フォスタリング機関・施設等が強みを理解しあい、対話を深め、ワンチームとなれるかもまだ課題だ。

多様なニーズや発達課題をもつ子どもを支えるための、すでにある社会資源の活用。不足する資源や動きの開発。社会的養護に理解のある里親・専門職の開拓・育成。実親との協働の模索。養育の安心・安全担保のための支援過程。伴走型支援の前提となる里親家庭との「顔の見える」協働関係の構築。自立支援の充実。委託児童や実子、ケアリーバー、里親のアドボカシー推進等々。

「子どもの未来に説明のつく」確かな取り組みが、今も、この先も求められる。



### 横堀 昌子氏プロフィール

青山学院大学コミュニティ人間科学部教授  
群馬県出身。児童養護施設職員だった両親のもとに生まれ、入所児とともに育つ。1982年に両親が設立したファミリー・グループホーム横堀ホームにて、里親委託をはじめ多様な背景をもつ子どもや大人と暮らす。大学院修了後、児童養護施設東京育成園、横堀ホームで働き、青山学院着任。青山学院女子短期大学教員を経て、現職。





## 鼎談「こども家庭庁・改正児童福祉法とその先」(前号の続き)



こども家庭庁設立・改正児童福祉法施行に向けて行った鼎談(昨年12月実施、宮島清氏(日本社会事業大学客員教授)、潮谷恵美氏(十文字学園大学教授)、武藤素明氏(当法人常務理事)の後半部分を掲載します。

### 【児童福祉法の改正ポイントを巡って】

#### <子育て世帯の包括的支援のための体制強化や事業の拡充など>

**武藤** 保育所も現在定員割れが起こってき始めて、今後、地域との関係を含めて、あり方が変わってくると思われる。保育所も地域の資源として多様な力を発揮することが求められるように思われますが、うちの保育園の職員と話していてもそういう問題意識を持っている人が少ないのが気になります。

**宮島** 保育士と接すると、皆さん、こどもが大好き、こどもの笑顔が見たい、日々の保育を充実させたいという方々ですね。

**武藤** 私は、二葉の明治時代からの歴史を振り返ると、地域問題イコール保育問題であり、保育問題イコール教育問題です。したがって今後は保育だけやっていればいいというものではないと話しています。

**宮島** 今回の児童福祉法改正の目標は、地域で包括的にこどもと家庭を支援できるようにすること。障害福祉では民間事業所が相談支援を担い、高齢福祉では地域包括支援センターが中心的な担い手となった。児童福祉は直営のまま、児童相談所と市町村が担う。ただし、これだけでは足りない。相談体制を爆発的に充実させないといけない。保育所と学校はどこにでもある。新しく創るより現実的で、保育所と学校がそういう機能を担っていくという方向に間違いはないと思います。

**武藤** 保育園の件では、私も三年間、内閣府の「子ども子育て会議」の委員をしていた時に、一つは保育所職員の処遇改善の必要性、もう一点は、保育園にもソーシャルワーカーの親支援や地域支援を行う専門職の配置をするべきだということをしていました。保育園は数が多いだけに相当の財源を投与しなくてはならないのですが、今後の保育所の機能として重要だと思います。

**潮谷** ソーシャルワーカー養成、育成の成果が一番見えにくい領域はこども家庭福祉の領域ではないかなと思っております。配置によって、専門的なこどもの見方、アセスメント、こどもや家庭への関わりは新たな

段階に入ってくるかと感じます。

**宮島** 今回の法改正で、市町村がサポートプランをつくることになった点に注目している。こどもと家族からニーズを聴き取って、関係者とも協議をして支援プランを作る。そのプランは、原則として当事者に示す。これは大転換です。こども家庭福祉の今は、通告がある、当事者に黙っていろいろ調べる、注意喚起をする、後は見守り。しかも、その内実は監視です。注意喚起は、犯罪防止モデル、病理を治すというのは医療モデルです。これを、当事者がどうしたいか、したくてもできないことは何かを中心に置くものに変えて行く。生きる権利を擁護する生活モデルに、こども家庭福祉を作り変えていかなければならない。

**潮谷** 専門職養成を、本当に力を入れてやらないといけないと思っています。そして、必要で有効なネットワークを形成し、社会資源を組織の中と外とできちんと繋げること、ニーズに合わせてそれぞれ活かすことをどのように実現していくかという、実践上の課題もかなりあると思います。

**宮島** 今回、在宅支援として家事援助を本格的に導入することになった。高齢福祉や障害福祉では、家事援助はずっと前から支援の柱だった。こども家庭福祉では、これが十分なものではなかった。できない親の善し悪しを言う前に、適切なケアを受けられないこどもがいっぱいいることを何とかしなければならない。それにもかかわらず、そばにいて支えるという中間的支援は殆ど無かった。中間的支援で最も重要なものがショートステイ。ショートステイはかなり前から始まった制度だが、地方では実施率が低く、実施している自治体でも実施の実績は極端に低い。

また、今回の法改正で新たに事業化されたものに、親子と一緒に保護する事業(妊産婦等生活援助事業)がある。無理ならばやはり親と分離してこどもを保護しなければならないが、判断する上でも、親子で一緒に保護するという選択肢は欲しい。

これは是非ともやって頂きたい事業、増やしていくべき事業だと思う。

**武藤** 現在、乳児院や児童養護施設



へ施設入所するためにはハードルが高い制度になっています。短期で、しかも親も一緒に利用できるということにも予算がついて制度化したいと思っています。家庭での生活がきつくなった親子や、家出したい時に一時避難で活用したり、児童虐待や家庭内暴力等酷い状況になる前に利用や活用したり出来るようにしたいと考えています。その施設があって小さい頃からいろいろ利用できるようにしたいと思って、国にも働きかけをして制度化して来ました。

**宮島** おっしゃられた地域のこどもの居場所も、今回の法改正で盛り込まれた。(児童育成支援拠点事業) 地域に養育環境に課題を抱える子のこどもの生活の場を作る。小さい子、小学生くらいの子、中高生が、そこで過ごせるようにする。その時間が暮らしの一部となる、そういったところを作りましようとなった。

### <こども家庭福祉実務者の認定資格を巡って>

**潮谷** これだけ新しい社会資源ができるということはこども達や家庭と接する専門職が増えるということになるので、この人達が本当の意味でのこども達への援助を保證できるのか、問われるところになってくると思います。

**武藤** 今回の法改正において、専門性の向上の問題はどちらかという資格問題だけの議論で、本当に必要で肝心なところが十分議論されていなかった印象がありますが、議論に入られていた宮島先生としてはいかがですか？

**宮島** こども家庭福祉の担い手の力量をあげることが必要という点では皆が一致していた。しかし、新しい国家資格を作りたいという立場と既にある国家資格をベースに足りない部分を上乘せするのが現実的という立場で平行線が続いた。結局、社会福祉士か精神保健福祉士で2年以上の実務経験者が研修を受けることと、これらの資格がなくても4年以上の経験者や一定の要件を充たす保育士等は研修を受ければ良いとする経過措置を組み合わせたものとしてスタートすることとなった。いずれも試験を行うとされています。具体的な内容は、現在別の有識者会議で議論されています。(注：2023年3月に具体案がまとめられた。)

私は、知識詰め込み型の教育で良いソーシャルワーカーを育てることはできない、実践的な教育訓練の方が大事だという立場です。

**武藤** 完璧な専門職なんてありえないと思いますし、全て身に着けた人を養成するというのは現実離れて

いるという印象を持っています。資格問題もありますが現場で考えるとやはり入所後の養成システムの構築が重要だと感じています。

**潮谷** 現場の実践の中に、専門性が試されることは多々あると思います。例えば、保育所の研修で、日常によくあることとして、ある場面が提示されました。親御さんがお迎えに来てもなかなか家に帰らない、園にずっと溜まって話しをしているという保護者の姿をどうアセスメントするのか、保育士の方々と検討しました。「あのお母さんなかなか帰らないのよね。いつも。」で終わってしまうのか、何か対応や、支援をすることはあるかという視点からお母さんの話に耳を傾けるのかによって、具体的な援助に結びつくか、必要なものを提供できるか、できないかが違ってくるとい話し合いになりました。

保育の現場でも、相談の現場でも、今、ここで起こっていることや抱えられているニーズに敏感に対応できるか、そのままになってしまうかは、現場の状況に立ち会っている人たちにかかっていることがあります。こどもや家庭のニーズに応じるソーシャルワーカーを現場において、専門職としてどのように育てられるかどうかということは、「人員を置きますよ」だけではだめで、例えばスーパービジョンを必ず受けられるような体制も含めての配置基準にするなど、組み立ての中にきちんと入っているというような条件の下で保証できるかと思っています。

**宮島** 社会福祉全体がこども家庭福祉に対する関心が薄かったことが問題だと思います。こども家庭福祉は特殊と見られ、社会福祉から離れて行くことに警笛を鳴らさなかった。その手法とか知見をあまり重視しなかった。だから、社会福祉士ができた時よりも必要な時間数が半減され、演習教材なども、高齢福祉などの事例の比率が高まり、こども家庭福祉の実践的な部分がどんどん小さくなってしまった。

**潮谷** ソーシャルワーカー養成、育成が急務となっている領域として、こども家庭福祉の領域があげられると思います。高齢福祉の領域は介護保険のためにマネジメントという概念が入ってきて地域とのつながりが既に欠かせないものとして見えます。障害福祉領域も総合支援法等による支援において、地域とのつながりが開かれてきています。こども家庭福祉の領域は、施設に関わる援助、社会的養護関係ではソーシャルワ



クの機能が活用されていますが、こどもや家庭に身近な保育所、幼稚園等の社会資源をはじめとして地域において、ソーシャルワークは身近ではない。このような状況の中で社会資源やそこに関わるシステムを新しい方向に動かすときに、高い専門性をもって、機能できるソーシャルワーカーの養成、育成は状況の改善や課題の解決に対して一つの大きな鍵になると見ています。

**宮島** 市町村のこども家庭福祉の場で、相談支援のための専門職を常勤専任で置いているところは少ない。常勤の担当はいても要保護児童対策地域協議会の名簿づくりとか、事務的な仕事が多くて、相談支援は非常勤の方が担っている部分が多いとか、常勤職がいたとしても社会福祉士資格を有する方が殆どいない、保健師や保育士をベースする方が圧倒的に多いという状況がある。

こども家庭福祉は困難を抱えて地域で暮らしている親子の問題、その親子は、住宅問題、貧困問題、精神保健の問題、病気・障害の問題等を抱えている。非常に幅が広く、暮らしの問題を全部扱うのに、ソーシャルワークができる人が足りない。

今このタイミングでは、多少ハードルを下げてでも、一旦は認定制度で良いので、ソーシャルワーカーとしての教育訓練を受けた人を、特に市長村に、ある程度の数、配置しないとだめだと考えています。

### 【二葉のその先に向けて】

**武藤** 最後に、お二人の先生方に二葉へのエールとか、今後頑張ってもらいたいことなど頂きたいと思います。

**潮谷** 歴史が長いということは、単に継続してきただけではなく、その時代時代の課題に向き合ってきた部

分が多くあると伺っています。私も取り組みも見せて頂いて、当たり前と思って職員の方はやられているけれども、こども達の一日一日やご家庭にとってかけがいのない関わりがたくさんあると思います。そこを意識して、日々の実践の中にある専門性の位置づけを改めて明確にし、今求められているものと継承してきたものとを合わせ、働いている方達が主体的に評価をされるといいのではないかと思います。

今回の法改正でも言われているアウトリーチの部分もかなり機能されていると感じていますので、そこを今から始まったわけではないという部分で評価し、引き続き人材を育成することにも生かすことが出来ると思っています。

**宮島** 先駆的な働き手として教科書に取り上げられて来た人たちは、ニーズがあるこどもたちに出会った時、見て見ぬふりしなかった人たちです。御茶ノ水女子大の前身の学校で学び、学習院の先生になって、通勤途中にあったスラム街で、泥水で遊んでいたこども達を見て、この子たちにこそ、保育と教育が必要だと確信して自分達で資金を集めた。教会でバザーをするというところから始めた。当事者に出会った時、ニーズに対してなんとかしようとした。二葉はそうやって取組を続けてこられた。これからもずっと続けて頂きたい。

**武藤** 私の方で本日の議論に付け足したいのが、今回の法改正での「施設入所の子どもの自立支援の課題」、もう一点は「子ども自身の意見聴取の仕組みづくり、アドボケイトの制度化」です。

今日は、テーマが少し大き過ぎたという感じかもしれませんが、とても良い機会になったと思います。今後とも引き続き諸先生方からご助言頂きながら歩いていきたいと決意を新たにしました。



在職時代のお写真

### 最期まで子ども達のために

～故大橋氏の二葉学園での御貢献、御遺贈に深謝～

このほど、昨年8月に逝去された元二葉学園職員・故大橋重正氏の遺言に基づく御寄附(2000万円)を受贈いたしました。法人では、全額を大橋基金(仮称)として管理し、法人内の社会的養護の下にある子ども達(卒園生含む)のために大切に使ってまいります。

学園職員として約24年間に渡り子ども達のために尽くされたうえ、御退職後も最期まで二葉の子ども達を思い、御遺志を残して下さったことに改めて深く感謝申し上げます。

## ご寄付をお寄せ下さった皆様（2022年度・敬称略）

愛知 芙美子	大井 篤見	片山 雅子	小林 肇	関口 隆雄	中島 太味子	細川 知子	茅根 雅史
秋輪 和幸	大木 尚美	加藤 貴行	小林 明信	関 幸子	中富 菜摘	堀井 一幸	冥賀 令
浅尾 邦子	大島 紀子	金子 恵美	駒崎 幸	関沼 幸通	永幡 紀明	堀 とし	元橋 三千代
足立 書子	太田 清子	金城 清志	小松 幾世	園武 友	中丸 有里	牧野 信也	本橋 裕子
阿部 陽子	大野 恵子	上石原 樹子	強瀬 順子	高浦 勝寿	中村 恵子	牧 甫	盛 和子
網野 武博	大橋 しのぶ	亀田 卓由	齋藤 乾吾	高木 雄太	中村 幸夫	牧 操子	柳 俊一郎
荒井 和也	大山 美和子	唐川 文成	齋藤 ミヨシ	高橋 清一	縄倉 尚子	増岡 まゆみ	柳本 吉彦
井口 早苗	岡崎 瑠美子	川崎 治子	五月女 友美子	高橋 和代	西本 知代	真鍋 美一	山口 顕治
井口 治彦	岡本 光一	河津 英彦	佐藤 和江	竹内 よし子	野田 英明	馬見塚 統子	山田 琢史
石井 孝寿	岡谷 重雄	菊田 桂子	佐藤 政雄	武田 康男	野津手 眞理子	溝端 健二	山戸 祐子
石森 康雄	奥野 宣子	菊地 邦夫	志賀 勝子	田村 幸子	橋本 康彦	宮川 千春	山本 利彦
磯部 日出夫	奥野 弘史	北澤 順一	実光 博幸	丹井 逸子	林 千尋	宮沢 成実	八幡 則子
稲垣 純一	奥山 明彦	清田 研	柴田 明	丹沢 美智子	原田 裕子	宮田 浩明	吉澤 貞雄
乾川 日出夫	小倉 嗣子	清永 信也	清水 裕子	徳川 恭子	東山 靖子	武藤 修明	吉田 恒雄
岩本 和雄	尾崎 百合子	清永 春美	杉江 栄美子	徳富 善子	廣瀬 久也	武藤 素明	吉本 大創
岩本 隆子	押切 重洋	向當 君枝	鈴木 信哉	徳永 冴果	福田 裕代	宗像 雅子	四ヶ所 大亮
上野 まり子	小野 雄一郎	小団扇 嘉仁	鈴木 洋	百々 典子	藤田 奈巳	村岡 えり子	力石 佳子
植山 洋子	片倉 昭子	古賀 光	鈴木 博人	外村 信太郎	藤原 成	村岡 海斗	渡辺 千恵子
遠藤 久江	片倉 裕司	粉川 貴司	鈴木 浩之	友成 崇英	舟久保 由紀子	村岡 弘	

二葉くすのき保育園父母の会  
もりた眼科小児科  
焼鳥とりふく糸川  
信濃町教会教会学校  
東中野教会二葉保育園支援有志  
四谷地区民生児童委員協議会  
東京調布ロータリークラブ  
調布駅前パソコン教室  
調布World Aid Team  
調布市クリスマス募金会  
調布狛江地区更生保護女性会(会長 愛甲 悦子)  
調布遊技場組合  
千代田区ボランティア  
「ぞろぞろ」会  
ヒカリ薬局信濃町店

日野台教会  
駒沢女子短期大学  
学校法人女子学院  
学校法人玉川学園  
日本キリスト教団 東中野教会  
日本キリスト教団 仙川協会子ども協会  
更生保護女性会(会長高橋)  
国際ソロプチミスト東京弥生  
子どものことを知る勉強会参加者有志  
一般財団法人こども・笑顔創出プロジェクト  
一般財団法人日本児童養護施設財団  
一般社団法人昭和会館(理事長 鍋島 厚)  
イトーヨーカドー労働組合  
朝日管財株式会社  
SMBCコンシューマーファイナンス株式会社

SOMA東京  
株式会社NUK建築計画事務所  
株式会社瀧澤建設  
株式会社三菱UFJ銀行  
株式会社バルテ・ハウスティ  
第一生命保険株式会社業務人財開発部第四  
オフィス(営業部長 亀田 浩太)  
大新電気工業株式会社  
株式会社東海リライアンス(代表取締役  
中島 弘人)  
株式会社滋谷不動産エージェンツ  
株式会社ドリームホーム  
有限会社柴田商店  
有限会社野地精肉店  
西光庵

物品寄附を下さった方、寄付者名非公表を御希望の方、銀行振込による寄付者の方(個人情報保護上、連絡先の提供を受けられないので寄付者名公表の可否確認不能のため)については掲載しておりません。万一、漏れ等がありましたら次号に掲載いたしますのでお手数ですが御一報ください。

## 2022年度に寄せられた寄付の報告と御礼

二葉支援の会をはじめ法人及び各施設に、2022年度はコロナ禍にもかかわらず、総額14,358,860円ものご寄付をいただきました(法人全体の受贈額。昨年度は法人本部のみの受贈額掲載)。誠にありがとうございます。

頂いた寄付金により、二葉乳児院では、子ども達が食事の時に使用するラグマット、二葉南元保育園では、子ども達のお昼寝に使用する布団60枚、二葉むさしが丘学園では、コロナ禍に子ども達が余暇を楽しめるように、漫画本を含む図書を購入、二葉学園では昨今の物価高騰に対応するために、約20年据置となっていた子ども達のお小遣いを増額など、子ども達のために大切に使用させていただきました。さらに、トリノスでは寄付金充当によって、国基準より手厚い職員配置に伴う赤字を脱却でき、法人本部では、本部建物の修繕積立金700万円を積み立てることができました。(本部の独自財源である駐車場収入は自立支援基金に充当するため、事務室・会議室など本部建物の修繕積立金の財源がなく、積立は長らく懸案となっております。)

また、自立支援基金には20万円を繰り入れ、昨年度末の積立額は9,066,337円となりました。(昨年度は、けがで働けなくなった卒園生に10万円を基金から支援しました。)

物品寄付につきましては、引続き感染対策用品をはじめ、価格高騰の続く食材や食品、二葉むさしが丘学園には企業様から可愛らしく温かい素材のソックスをたくさん寄贈頂くなど、心温まる御厚志に改めて深く感謝申し上げます。

以上、2022年度(2022年4月～2023年3月)中に頂いたご寄付について、法人一同心からの感謝をもって報告いたします。

社会福祉法人二葉保育園 法人事務局

# 「二葉支援の会」への寄付のお願い

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動をしています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金の税額控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」 お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 03-3341-1205 (平日10時~17時)

E-mail [info@futaba-yuka.or.jp](mailto:info@futaba-yuka.or.jp)

郵便振替

口座番号：00120-2-30321  
口座名義：社会福祉法人二葉保育園

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。

銀行振込

三菱UFJ銀行 支店名：四谷支店  
口座番号：普通0506208  
口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 井上従子



この度、Syncable(シンカブル)のクレジットカード等寄付システムに変更しました。こちらのQRコードをご活用ください。

ご住所を入力する欄がないため、税額控除証明書をお送りできない場合がございます。銀行口座へお振込みの際は、お手数ですが法人本部へご住所をお知らせください。



## 社会福祉法人 二葉保育園 概要



### 法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地  
設立：1900年(明治33年)  
理事長：井上 従子  
常務理事：武藤 素明  
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、森本 裕美  
評議員：宮沢 成美、磯谷 文明、潮谷 恵美、園 武友、関原 陽子、貫名 通生、浦上 充、竹内 よし子、橋本 ゆかり  
監事：馬場 充、金子 恵美  
職員：4名

### 二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長：都留 和光 副院長：長田 淳子  
児童定員：40名 職員：124名  
所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

### 二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要  
児童定員：58名(グループホーム8ヶ所を含む)  
職員：93名  
所在地：本園 〒182-0035  
東京都調布市上石原2-17-7

### 二葉南元保育園

園長：橋爪 主税  
児童定員：110名 専用型一時保育：10名 職員：42名  
所在地：本園 〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

### 二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美  
児童定員：97名 職員：45名  
所在地：〒182-0022  
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号棟

### 二葉むさしが丘学園

園長：菅原 淳史 副園長：渡辺 剛史  
児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む) } 職員：78名  
グループホーム：18名  
ファミリーホーム：6名  
所在地：本園 〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

### 自立援助ホーム トリノス

ホーム長：相原 信一  
児童定員(男子)：6名 職員：5名  
所在地：東京都日野市  
(成人を含む利用者の住所地となっているため非公開)

二葉とこども35号 2023年 8月31日発行 編集・発行 社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」  
〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地 TEL：03-3341-1205 法人本部事務局 <http://www.futaba-yuka.or.jp>

